

事業完了報告書（広島市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月8日 ～ 令和6年3月15日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究のねらい	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒が日本社会に適応し、自立した社会生活を営むために、地域交流を行い、地域住人との交流の中で必要な力を身に付けられるように研究する。○ 生徒の中には、成育環境・生活状況に様々な事情を抱えている人もいることから、生徒一人一人の状況把握を教諭、カウンセラー等と連携をとりながら、それぞれの生徒に合った学習を尊重できるように受入体制や指導方法の在り方について研究する。○ 経済的負担を考慮した上で、実生活に活かせる効果的な校外学習等の在り方について研究する。
調査研究の成果	【広島市立二葉中学校】 【広島市立観音中学校】 別紙のとおり

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月8日～令和6年3月15日
調査研究事項	委託研究:夜間中学における教育活動充実に係る調査研究 ≪広島市立二葉中学校≫ VI その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究のねらい	<p>○ 生徒が日本社会に適応し、自立した社会生活を営むために、地域交流を行い、地域住人との交流の中で必要な力を身に付けられるように研究する。</p> <p>○ 生徒の中には、生育環境・生活状況に様々な事情を抱えている人もいることから、生徒一人一人の状況把握を教諭、スクールカウンセラー等と連携を図りながら、それぞれの生徒に合った学習を尊重できるように、受入体制や指導方法の在り方について研究する。</p> <p>○ 経済的負担を考慮した上で、実生活に活かせる効果的な校外学習等の在り方について研究する。</p>
調査研究の成果	<p>≪広島市立二葉中学校≫</p> <p>1 調査研究の実施内容</p> <p>【4月】・ 第1回研修会 各生徒の学習及び生活の状況について情報交流を行い、新年度の指導計画について研修した。</p> <p>【5月】・ 第1回検討会議 新入生2名の生育環境・入学までの学習歴・生活状況・入学後の学習状況等について情報共有を行い、今後必要な支援について検討した。</p> <p>【6月】・ 第2回検討会議 登校状況の変化した生徒を中心に生活状況等の実情把握に努め、今後の指導方針について検討した。また、生徒の実態に合った地域交流の実施に向けて、内容・時期・講師等について検討した。</p> <p>・ 校外学習 新型コロナウイルス感染症感染拡大対策に努めながら、中型バスで豊平どんぐり村へ行き、楽しく蕎麦打ち体験を行った。天候に恵まれ、仕事を調整した多くの生徒が参加できた。日本の文化や自然に触れ、交流会で仲間との親睦を深めることができ、非常に有意義な校外学習となった。</p> <p>【7月】・ 第2回研修会 個々の生徒の学習状況や習熟度等について情報交換を行い、現状の把握に努めるとともに、各教科の指導方法や教材について</p>

交流した。

【8月】・教材の作成

ペアでのQAやインタビューなど会話練習教材や非漢字圏出身生徒も段階的に学習できる漢字教材などの作成に努めた。また、今年度は多数の高校進学希望者がいたため、進路学習教材を多言語で作成・準備した。

【9月】・夜間学級連絡会①

実施されなかった。

・作成した教材を用いた授業研究

昨年度に引き続き、日本語授業で学習内容に応じたペア練習やロールプレイ、インタビューなど「話す」「聞く」活動を取り入れ、更に「書く」活動も増やすよう取り組んだ。また、日本語授業の中でも漢字学習に継続的に取り組むことで、非漢字圏出身生徒が抱えている漢字に対する苦手意識を少しずつ軽くできるよう工夫した。継続的に取り組むことで、生徒自身も面白さに気づき、学習意欲の向上につながっている。

【10月】・第3回研修会

各生徒の前期の学習状況を確認し、後期の指導内容について検討した。また、新入試制度の一部変更や高校受験希望生徒に対する取組についても確認した。

【11月】・異文化交流体験学習

日本の歌を中心に様々な国の歌や季節の歌について学び、異文化理解を深めるよい機会となった。また、生徒もウクレレで伴奏しながら合唱して参加し、日頃の音楽の学習成果を発揮できた。

・地域交流体験学習

地域の方が講師となって、日本語の指導による茶道を体験した。初めて抹茶や生菓子をいただく生徒がほとんどで、日本の伝統文化に触れるよい機会となった。ゆっくり分かりやすく丁寧に指導してくださり、楽しく交流できて有意義な学習ができた。

【2月】・第4回研修会

各学習グループの学習指導・生徒指導及び進路指導等について、今年度の成果や課題を検討した。

・夜間学級連絡会②

夜間学級の現状や入級希望者に関する情報交換を行った。

【3月】・第3回検討会議

新入生の状況や来年度の学習グループの編成等について検討した。

・第5回研修会

今年度の成果と課題をまとめ、来年度へ向けての準備を確認し

た。

2 調査研究の成果

- 今年度も日本・中国・ネパール・フィリピン・ブラジル・インド・ペルー7カ国の生徒が学習しており、生徒の日本語力や各教科の学習状況、卒業後の進路希望等により、日本語基礎・日本語発展・教科基礎・教科発展の4学習グループに編成して、指導した。日々の日本語授業では、テキストに基づいた学習を中心に基本的な学力の定着を図っている。今年度は、地域の方を講師に招聘し、日本の茶道について日本語で学び、交流する機会を設けた。テキストはなく自分の耳だけを頼りに、初対面の日本人が自然に話す会話を聞いて理解する体験は、授業とは違う緊張感を持ちつつも、周りとの交流しながら日本語を理解し、楽しむことができ非常に有意義だった。将来いろいろな生活場面で、自分の日本語力で対応していけるように、今後も更に学習に取り組もうと意識することができた。
- 日本人生徒2名はどちらも精神的に不安定なため、学習グループも日本人生徒だけで編成し、教室が安心していられる場となるよう配慮した。3年生の1名は入学当初より将来カウンセラーになりたいと希望しているため、進路学習的な効果もねらいスクールカウンセラーのお話を聞くという機会を設けた。その中で、実際にカウンセラーになる場合に自分が持つ課題も次第に理解し、卒業までに今の自分が頑張れることを決め、登校や学習に取り組むことができた。
- 今年度は借り上げバスの使用により、生徒は交通費無料で校外学習を実施でき、多くの生徒が仕事を調整して参加した。豊平どんぐり村では、日本語で蕎麦打ち体験担当者の指導を受けて日本の伝統食である蕎麦を生徒皆で協力して作り、その後の交流会では日本語で楽しく交流しながら自分たちが作った蕎麦を食べる経験ができた。餃子やナン等生徒の国の粉料理とは違い、薄く伸ばして折り返し幾層にも重ねて更に伸ばしていくための綿棒の使い方を覚えて、日本の麺も材料があれば手作りできることが分かり、日本の食文化を身近に感じるようになるようになった。
- 地域交流においても校外学習においても何より生徒にとって最も大きな成果は、初対面の日本人の自然な日本語を聞き取り、交流することができたという経験である。これまでの学習が身につけていて実際に役立つということを生徒自身が実感でき、今後日本で様々なことに挑戦しながら生きていける自信となった。

1 調査研究のねらい

【広島市立観音中学校】(学習指導に関すること)

本校には日本人、フィリピン人、中国人が在籍し、年齢層は10代から60代と幅広く、学習歴も様々である。義務教育内容習得が不十分な既卒者だけでなく、日本語の習熟度が低く、義務教育内容が不十分な生徒も在籍している。そのため、個に応じた教科指導が課題であり、各国籍の生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導や教材のあり方について研究する。

(課題)

- ・ 日本語の習熟度が低く、また学習速度も遅い生徒に対する効果的な学習指導
- ・ 継続的な登校が困難なため日本語の定着度が低く、初級後半レベルの日本語学習が難しい生徒に適した学習指導
- ・ 日本語学習を主とした学習段階から、教科学習を主とした学習段階へ移行した生徒に対する教科指導
- ・ 義務教育内容の習得が不十分な、学び直しの日本人生徒に対する教科指導
- ・ 高校進学希望者の学力保障

(その課題を持つこととなった背景等)

- ・ 国籍・年齢も母国での学習歴も来日後の生活環境等も出席状況までも異なるさまざまな生徒が、少人数グループであるとはいえ、一斉授業で日本語初級から学習するため、生徒間の日本語の学習速度や習熟・定着度には大きな差がある。
- ・ 出席状況や生徒の年齢差による、日本語初級の前半終了時点での学習内容の定着に差が生じている。そのため、既習事項の定着を前提として展開される、教科学習の学習内容理解が困難な生徒が多い。
- ・ 日本語教材だけで行う日本語学習では、日本語力はある程度までで進歩が滞ってしまいがちである。日本の文化・社会・歴史・生活習慣等を幅広く学ぶことによって全体的な日本語力の向上は図れるが、生徒の多くはその認識までには達していない。また、生徒の日本語能力と中学校教科書で必要とされる日本語力にはかなりの開きがあるため、日本語による教科学習はまだ早いと考える生徒も多い。
- ・ 既卒者(日本人の学び直しの生徒)・義務教育内容の習得が不十分な生徒に対し、「工夫された授業」による効率よく学習指導し短期間で成果を上げる方法について調査・研究する必要性が生じてきている。

以上のような状況の中で、より効果的で生徒の学習意欲を高める取組を行う必要があり、日本語指導チーム・教科指導チームを中心に効果的な日本語学習自主制作教材の作成及び「行事を通じた日本語指導」について調査研究する。また、オープンスクール開催へ向けての調査研究・情報収集も行う。

2 調査研究の成果

【広島市立観音中学校】

(1) 本年度の取組について

上記のねらいの達成を目指して、本年度は次の取組を行い、実践に結びつけ成果をあげた。

① 教員研修

年3回程度、学校内外で担当教員による授業に関する研修会を開催し、多様な生徒に対する使用教材・指導方針・方法について意見交換を行い、学習指導に対する理解を深めた。また、校内では夜間学級を広く知ってもらうための方法やオープンスクールの開催について討議を重ねた。「自主作成教材」の交流・研究・討議を継続的に行っていく必要がある。

② 情報収集・・・奈良市立春日中学校

春日中学校は、本校と同様に昼の中学校もあるが、独立した建物の中に、夜間学級が存在する。そのため、普通教室以外に、保健室、図書室、集会室、多目的室、美工室、EVなど設備も充実している。

授業は、夜間に登校することが難しい生徒のために、昼の部と夜の部の両方の時間帯で設定されており、少人数体制で、より生徒の実情や希望に応じた形で授業を進めている。教科学習に関しては、5教科は、簡単なことから始める授業と中学校の教科書を使用した授業に分かれて実施されている。4教科は一斉授業で実施されており、本校と共通している面もある。

今後、本校でも学び直しの生徒と外国人生徒が混在する状況を考えると、昼の部・夜の部の設定や5教科の教科学習を2つのコースに分けることなどを参考にし、本校にとって最適な形態を探りながら、実践に取り組んでいきたい。

③ 授業実践

地域交流や文化体験を通して日本語に触れさせ、日本人と直接話すことで自分の日本語力を確認させる機会をもつことができた。また教科指導グループにおいて、研修や各自収集した情報を活用し、生徒実態に応じた学習教材を準備し、分かりやすい授業づくりに努めた。さらに今年度は特にITC等の活用を通して、日本語の授業と連動したシャドーイング練習や、日本語の授業における導入や復習を行い、主体的な学びにつなぐことができた。

<行事を通した日本語指導>

- ・ 5月 地域交流 ～公民館活動の体験を通して～
- ・ 6月 校外学習 ～自然体験を通して～
- ・ 12月 音楽会 ～演奏会での交流を通して～
国際理解講座 ～沖縄の伝統芸能にふれる～
- ・ 1月 地域交流 ～公民館活動の体験を通して～

④ オープンスクール

12月に2日間実施。「夜間学級で学んでみませんか?」・「オープンスクール～夜間学級見学会～お知らせ」の2種類の啓発資料を日本語・英語・中国語の3か国版を作成し、校内へ掲示し呼びかけを行うとともに、学校ホームページにも掲載した。

(2) 改善取組の成果・課題について

① 教材作成

- ・ ITC等の活用を通して、日本語の授業と連動したシャドーイング練習や、日本語の授業における導入や復習を行い、主体的な学びにつなぐことができた。欠席しないで授業を受け、学習が継続できた生徒については、学力や日本語力の向上につながっている。自信をもつことが学習意欲の向上にもつながるため、引き続き生徒への根気強い声かけと、学校へ行って勉強しなければ損ををすると思える魅力的な授業、教材作りを工夫していく。

② 行事を通じた日本語指導

- ・ 夜間学級に在籍する生徒の約9割は外国籍であり、母国の文化や慣習の違いによって、保健指導が重要であることの理解を得ることが難しい場合がある。生徒の健康状態の把握と一人ひとりが安心・安全に学校生活を送るために、今年度も養護教諭を中心に対策を徹底した保健指導を行った。感染症拡大防止対策で実習を3年間見合わせていたが、新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類への移行に伴い、全学年合同で歯周病についての保健指導で歯垢染め出しを実施した。生徒は自分の口腔状態を確認するとともに、意識に大きな変化が見られた。
- ・ 国際理解講座として、今年度は沖縄の伝統文化であるエイサーを鑑賞・体験した。エイサーのみならず、三味線の生演奏や琉舞を目の前で見ることで、日本のみならず、自国の文化や芸能についても考える機会となることを目的に、琉球太鼓の講師を招いた。生徒は初めて聞く音楽に熱心に耳を傾け、強い関心をもっていた。
- ・ 広島市佐伯区湯来町に校外学習に行き、日頃教室で学んでいる内容を校外で実践学習をすることができた。牧場ガイドツアーでは、日本語での説明に耳を傾け、牧場に関する理解を深めた。貸し切りバスでの移動だったので、バス内での日本語を使っての交流は意義深いものとなった。一日を通して、学習班・学年・国籍に関係なく生徒間の絆が深まったと思う。